

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社フィールズ

②施設・事業所情報

名称：木下の保育園新百合ヶ丘	種別：認可保育所
代表者氏名：山田明美	定員（利用人数）： 90名
所在地：〒215-0026 川崎市麻生区古沢43 コザワビル2階	
TEL：044-959-1169	
ホームページ：https://www.kinoshita-hoku.com/facility/shinyurigaoka	
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2008年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社木下の保育	
職員数	常勤職員： 19名 非常勤職員： 21名
専門職員	（専門職の名称） 名 保育士22名
	園長1名 栄養士3名、看護師1名
	主任保育士2名 事務員1名、用務員1名
施設・設備の概要	（居室数）保育室12室、事務室、医務室、調理室、相談室、遊戯室、倉庫、休憩室 （設備等）各部屋冷暖房完備、乳児室床暖房、バリアフリースイッチ、園庭

③理念・基本方針

法人理念： 生きる力を創る
<p>保育目標： 協調性 仲間を大切にし、思いやりのあるこども</p> <p>のびのび 心身共にすこやかで、意欲的に活動できるこども</p> <p>試行錯誤 最後まであきらめず、行動できるこども</p> <p>探索活動 挑戦することを楽しみ、自ら表現することも</p>
<p>保育方針： 協調性を持ち、他者を尊重し、認め合う心を育てる</p> <p>のびのびと自己表現が出来る環境を提供する</p> <p>試行錯誤をする中で考え創造し、自分で判断する力を養う</p> <p>探索活動を大切にし、こどもの興味や関心に寄り添う</p>

④施設・事業所の特徴的な取組

◇年齢別保育と異年齢保育の両方を組み合わせた保育を展開し、子どもの自主性を育む保育を目指す。
◇子育て支援に力を入れ、園庭開放や行事への参加、子育て相談に応じる。
◇保育士・看護師・栄養士の三者連携を重視し、特に「健康集会」を通して子どもの健

康・栄養面の大切なことを伝える。

◇避難訓練と合わせて「防災教育」を行い、身を守る方法を知らせる。

◇職員間で協力体制を築き、風通しの良い働きやすい職場を目指す。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和2年7月13日（契約日）～ 令和3年3月3日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	初回（ 年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

1) 理念とする「生きる力を創る」を実践しています

年間の保健計画、食育計画の目標やねらいを明確にし、各計画通りに毎月実施しています。加えて年間3回の「健康集会」を保育士・看護師・栄養士の三者連携で行っています。今年度は、「噛むことの大切さ、歯の磨き方、虫歯予防」「風邪予防」「生活リズムを整える」のテーマで子どもたちが興味や関心が持てるように寸劇、模型、ペープサートを使い、免疫レンジャー、ホルモンちゃんなどキャラクターも登場させて体の仕組みを分かりやすく教えています。

自分の体を知り、「なぜ・どうして・だから」の答えを自分たちで考え、納得し、生活習慣に取り組む姿が日々の活動に現れています。健康集会の様子は保護者と共有し、食べること、排泄すること、息をすること、運動すること、休むことの日常生活の大切さを継続的に伝えています。

2) 演習などで「生きる力」を学習しています

毎月行う避難訓練に合わせた防災教育を年に2回行っています。火事、洪水（園は浸水想定区域内）の有事に備え、段ボールや発泡スチロールを障害物に見立て、ガラスの破片はペットボトルで作り、カーテンを引き、電気を消して暗闇を想定するなど、慌てずにどのように行動していくか演習方式の体験を重ねています。

演習を通して子ども自身が理解し、記憶し、身の守り方を体で覚えられるように分かりやすく伝え、災害にあってもその環境の中で知恵を働かせ、身を守り、生きる力に繋がることを模擬的体験を交えた学習を取り入れています。

◇改善を求められる点

1) 中長期ビジョンや事業報告・計画の見直し

事業報告で課題となった業務について、具体的な改善策を明記し、事業計画に繋がるシステムが十分ではありません。事業報告で出た課題の分析・目標の設定・改善策の実施・効果の確認とするPDCAサイクルを職員共有のもとで実施し、次年度の事業計画に具体的に繋げていくシステムの構築が期待されます。また、この事業報告・計画は、法人の中長期ビジョン、及び、園の中長期ビジョンとの整合性が求められます。

2) 次世代の保育士育成

園は、この数年来、実習生の受け入れを実施していません。実習生やボランティア受け入れのマニュアルはありますが、活用する機会がありません。今後は、保育士育成の学びの場として実習生を受入れると同時に職員の振り返りの良い機会として、積極的に取

り組むことが期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回、園長として初めて「第三者評価」を受け、園の運営や保育のあり方、保護者や地域の方との関係性等、改めて振り返ることができ、多くの気づきを得ることができました。

運営の面では、園の分析シートを元に法人と園との中長期ビジョンの見直しを行っていきたいと思います。

また、保育の面では子どもたちの気持ちに寄り添いながら、子どもたち自身が話を聞き考え発言できるような環境を整え、「生きる力」を培っていけるよう努力し続けたいと改めて思いました。その中で、保育士も保育の質を追求しながら子どもたちと一緒に成長できるような園づくりを行っていこうと思います。

そしてまた、保護者や地域の方との触れ合いがもてる場の提供をさらに増やし、地域に寄り添った園になっていきたいと強く感じました。

今後も「子どもたちにとって」「保護者や地域の方にとって」を職員みんなで考え、協力しながら保育していけたらと思います。そして、その保育を実習生やボランティア受け入れに繋げ、次世代の保育士育成にも取り組んでいけたらと思います。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり